

アカシア探険隊

M1・2010(冬)

～恵比寿ガーデンプレイス
行きそびれの巻～55回 福田 眞氏
～モルガン・スタンレー証券
会長～

谷口：先輩、前回の六本木ヒルズに続き、今回は恵比寿ガーデンプレイスと聞きましたが、我々の扱いもだんだんとグレードアップしてきましたね。

中本：そりゃワシが陰で色々と努力しとるけえの。お前が毎回締め切り前に余裕をもって原稿を出しゃあ、もっと待遇が上がるんじゃがのう。

谷：(・・・・・・はいはい。いっつもギリギリですんませんね。記事を纏めるんも大変なんじゃ！・・・・・・)

中：なんかゆうたか？

谷：いや、なんもゆうとりやしません。ところで今回はインタビュー後には当然エビスビール飲ませてもらえるんでしょうね。

中：ところが、今回の場所はのう、元ビール工場近くでなあ、広島よー。いつもみたいに変な事聞くんじゃないで。

谷：(そりゃこっちの台詞じゃ。いっつもつまらんこと聞くんはそっちじゃろうが。)

中：なんかゆうたか？

谷：い～えの。ところで因みに聞いときますが、変な事って例えば何ですか？

中：そりゃあ、マリオブラザーズとか、三矢サイダーとか、ブルージェイズとか・・・・。

谷：はあ？？？何の事やらさっぱりわからんわ。

中：まあエエけえ、いつもの質問内容で行け。

ということで、今回は55回卒モルガン・スタンレー証券会長、福田 眞さんの登場です。福田さんは東京大学法学部を卒業後日本興業銀行に入行、その後長く日本の金融業界で活躍され、海外勤務も豊富です。2007年10月よりモルガン・スタンレー証券に入られ、現在は会長に就任されております。

アカシア財政難の折、今回は福田さんにムリをお願いし、広島までわざわざ足を運んでいただき、昨今の日本、そして世界の金融情勢や世界経済の実態に迫りました。



中：本日は大変にお忙しいところ、又、遠路はるばるお越しいただきありがとうございます。

福田：いやいや、どういたしまして。

谷：早速ですが、附属時代の思い出をお聞かせ願えますか？

福：私は小学校から附属にお世話になりましたが、今振り返るとありがたい教育を受けたと思います。学校生活以外では、やっぱり広島の自然のなかで過ごした臨海学校や宮島等でのキャンプが思い出されますね。部活はバレー班に所属していましたが、学校の課外活動の域を堅実に守って一步も出ませんでした(笑)。私らの頃はサッカーが凄かったから、とても比べられません。それから先生方の事がやっぱり印象に残っていますね。我々の学年を担当してくださった先生方をはじめ、素晴ら



P r o f i l e

昭和21年8月26日 広島市上柳町(現 中区上鞆町)生まれ、40年3月 広島大学附属高等学校卒業、45年9月 東京大学法学部卒業、46年7月 日本興業銀行入行、50年6月 米国フレッチャースクール大学院卒業、平成12年6月 日本興業銀行常務執行役員、14年4月 みずほコーポレート銀行常務執行役員、17年4月 みずほ証券株式会社取締役社長、19年12月 モルガン・スタンレー証券株式会社会長

しい方々でしたねえ。特に高皿の担任だった森本正一先生にはお世話になりました。慈愛に満ちたお人柄でした。また生徒は勿論、親が先生方を非常に尊敬していたことを覚えています。時代に安易に迎合する事なく、信念を持っておられる姿が印象的でしたね。また、12年間も一緒に過ごす親とも親しくなり、今でも友人の名前が出ると、その母親の姿が目には浮かびますね。

谷：当時から自由・自主・自律の精神を感じられていましたか？

福：いや、そういう高い意識の持ち主ではなかったし、他の校風を知らなかったです。ただ、今思えばなんとなくそんな事を心の深いところでは感じていたかもしれませんね。君たちもそうじゃなかった？

中：自由だけは大いに意識してましたけど。

福：・・・・・・

谷：卒業後は上京された訳ですが、ど

祝 新広島県知事誕生 [湯崎 英彦氏(75回)]



新知事のご活躍と“ふるさと”ひろしまの発展、
並びにアカシアの皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。

アカシア会 常任幹事会有志一同

のような学生時代、社会人時代を送られたのでしょうか？

福：大学時代は学園紛争が真っ盛りで、勉強した覚えは余りないですね。3年生の後期から授業自体がない訳だし、学生はゲバ棒を振るかジャン牌を握るしかない時代でしたね。そんな時代の中で、私は典型的なノンポリでしたよ。良い意味でも悪い意味でもね。附属にいたことも関係があるのかなあ？

谷：大学卒業後は日本興業銀行に入れた訳ですが、金融業界を目指されたきっかけは何かありますか？

福：何となく、というのが正直な答えです。さっきも言った通りの大学生時代を送った訳だから。「興銀」と言えば聞いた事があるし、面接受けてみるか、みたいなもんですよ。会社や業界って、入ってみたいと本当のところはわからん訳でしょ。会社の就職ってそんなもんですよ。人生は些細なことで決まる、って誰かが言ったけどそう思わん？

中：おっしゃる通りです。

谷： 〃

福：ですが、社会人になってから性根が入ったというか、大学生時代が前述のようだったんで、それなりに頑張りましたよ。アメリカに最初に留学させてもらって、その後世界銀行へ職員として派遣されたり、都合3回に亘り合計で12年アメリカに滞在しました。是非海外勤務したかった訳ではないけどね。

谷：しかしその経験が貴重ではなかったのですか？

福：そうですね。ちょうど時代に適っていたのかもしれません。特に国際機関で外国人の間に入り、独りで奮闘していたのを懐かしく思い出します。

谷：話変わって、アカシア会、或いはアカシアメンバーへのメッセージをお願いしますか。

福：「待ってました！」と言うか、自分で言うのもなんだけど私は相当なアカシアフリークでね。興銀でもアカシア会の集まりを時々もっていましたし、海外赴任中もニューヨークでアカシア会のメンバーに声を掛けて集会をしていました。昭和50年のカープ初優勝のときは興銀で「赤ヘル会」を作りましたが、職場の先輩でもあった50回の隅田正興さんをはじめ、楽しく氣勢を上げていました。会社が「みずほ」になった後も第一

勧銀や富士銀行出身の人にも声をかけてアカシア会を作りました。母校100周年の時がちょうどみずほができた年で、有志を募って募金をしました。広島以外の会社でOBが有志で広告を出したのは我々だけじゃなかったのかなあ？

中：現在は東京アカシア会の役員もなさっていますね。

福：そうです。最近はアカシア会本体と地域アカシア会のあり方、関係も変わってきていて、いろいろと前向きな議論が活発に展開されて良い方向に向かい始めていると思います。例えば「世の中の為になるような活動しよう」とか「若い世代にもっと声をかけて活性化しよう」とか。また、「現役生徒諸君との交流を深めて、彼らの為になるような活動を」とかね。彼らも卒業後はアカシアメンバーだから、その流れを作れたら連綿とした更なる良い伝統ができると思うんですよ。学校と卒業生が協力して、かつてのように「広島と言えばやっぱり附属よ」、と言われるようにしたい。

それからもう一つどうしても言いたいのが女性の存在の大きさです。アカシアは女性でもっている面が非常に大きい。彼女たちのバイタリティや視点の斬新さにはいつも驚かされ、圧倒されます。これは男子校、女子校にはない大きな特色の一つだし、学年の幅を大きく超えて団結するアカシアの特色を大きく支えていると思います。

中：それは在学中からお感じになっていましたか？

福：・・・いや、アカシアに入ってから感じた、ということにしておいて。

谷：現役生徒諸君へのメッセージもお願いします

福：今の時代は、どうしたって世界とのつながりを考えずに生活する事は出来なくなっています。最近で言えば、リーマンショックなんかが良い例です。我々の若い頃の「国際化」とは異質の「国際化」が加速度的に進んでいます。かつては国際という土俵に上がって、勝つ為の努力さえしていれば良かった訳です。しかしこれからはその土俵の上でどのように戦うかをより高い次元で考えないといけない。ただ英語が喋れてディベートだけ強くなれば良いというものではない。日本人としての美德を充分備えた上で、国際社会に対応し



てゆく力をつけて頂きたい。日本の美德感覚が邪魔になる事もあるけれど、見かけは日本人だが中身は全く違う、というような人間にはなって欲しくないですね。高校時代にはそれを意識するだけで良いと思います。意識していれば後々大きく花開くでしょうから。これからは中国、インド等とも競争をしてゆかねば日本は生き残れない。アカシアの若い世代、現役諸君には大いに期待しています。

谷：本日はお忙しいところ、有難うございました。



谷：先輩、今日もいいお話が聞けましたね。

中：さすがにビジネスマンとしての海外赴任経験が豊富な方だけあって、これからの日本がどうあるべきか、これからの国際化の本質とは何か、がよく理解できたわ。

谷：お、いつもと違ってまじめですね。ということは、いいインタビューが出来た、ちゅう事です。それじゃあ約束どおりエビスビールで乾杯！と行きましょうか。

中：まかしとけえや。キリンビールの営業部長よう知っとるけえの。今から電話して、エエ店教えてもらおうわ。

谷：(だめじゃ、このおっさん)・・・

中本 泰弘 (65回)

谷口 公啓 (73回)



左から中本泰弘(65回)、福田 眞氏(55回)、谷口公啓(73回)